

子どもに伝えたい言葉考

—保育科学生が考える言葉を中心に—

皆川 晶

On the words to have children understood

—Focusing on the words thought by the nursery students of
nursing department—

Aki Minagawa

Abstract

The way Nursery teachers are concerned with children is thought to have great influence so that children can express their own thought to be understood by their friends. That is, good or bad, they are influenced by their teacher. The words uttered by teacher turn to be those of children.

Then, the students who aim to be teachers searched what kinds of words they teach, and want to be used by children.

Though the students usually use the words young men speak, the words they present as 「the words they wanted to be spoken by children」 and the reasons, as a nursery teacher or one human being, are full of the words of feelings love of nature, feeling each other's heart, considering others' feelings. The words of praising others, giving sense of security, expressing one's feelings directly, which are those that nursery teachers want children attired in their childhood.

Keywords: articulating, affirmative words, sense of security, acceptance

1、はじめに

子どもの生きる力の基礎を育むために、『幼稚園教育要領』には、小学校就学前までに育てていきたい資質・能力として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が挙げられている。その具体的な姿の一つに「言葉による伝え合い」がある。そこには、「先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる」¹⁾と示されている。「言葉による伝え合い」を成立させるには、

子どもが自分の思いや感じたこと、気づいたことを言葉で表現する必要がある。しかし、まだ語彙力が十分ではなく、言葉でうまく表現できないことも多いので、子どもの年齢や発達段階に応じて、わかりやすい言葉を補い、子どもが自分の気持ちを言葉で表現できるような保育者の援助が必要になってくる。

さらに、「話したい、伝えたい」と思う相手、つまり、信頼関係のある保育者や友達と気持ちが通じ合うことの喜びや心地よさを感じることで、言葉を獲得することに対して意欲的になると考えられる。日頃の遊びや活動の中で心動かされる体験をすることで、豊かな言葉のやりとりが生まれ、「言葉による伝え合い」が活発になる。よって、子どもが自分の言葉で自分の気持ちを表現でき、友達と心を通わせるようになるためには、保育者の関わりが大きく関係すると考えられる。

子どもにとって身近で信頼できる存在は保育者であり、子どもは保育者の言葉を聞きながら、日々成長している。つまり、良くも悪くも保育者の影響を受けることになる。保育者の言葉が子どもの言葉になるのである。だからこそ、子どもの豊かな言語環境を作るよう保育者は努めなければならない。

保育科学生が抱く言葉についての研究の中で、久保田・吉田²⁾は、子どもへの言葉による働きかけについて保育学生は、子ども自身の言葉より精緻に表現すること、子どもの心情を理解していることを子どもに伝達しようとする共感の明示化、子どもの自己肯定感情にポジティブに作用するような肯定的な言葉づかいを「望ましい言葉づかい」と見なしていることを示している。また、松尾³⁾は、子どもは保育者に個々の存在を肯定された時に育つので、心に届く言葉を選んで使うことが重要であると示している。ともに、子どもの自己肯定感が形成されるような言葉かけの必要性を説いている。

そこで、保育園や幼稚園、施設などでの実習経験のある保育科学生は、保育者としての立場から、子どもにどのような声かけをしたいと考えているのか。また、子どもと言葉の関係性、保育者としての声かけの留意点などについて調査をすることにより、言葉に関する認識や重要性、影響について検証する。

本研究では、子どもに伝えたい言葉を挙げ、なぜ伝えたいと思うのか理由も聞くことにより、学生の言葉に込める思いや子どもへの願いなどを知るとともに、子どもと言葉に対する保育者意識を知る一つの手立てとしたい。

2、調査方法

調査時期及び調査対象と方法については以下のとおりである。

2-1 子どもに伝えたい言葉とその理由の調査

2022年4月から7月にかけて実施。 本学保育科2年生 49名

「言葉（指導法）」を受講している学生が、授業のはじめに保育者としての立場から、「子どもに伝えたい言葉とその理由」をカードに記入した。毎日の生活の中で、自分が人から言われてうれしかった言葉や人に喜んでもらえた言葉、あるいは、実習中に子どもと話し

て反応のよかった言葉、実習先の先生が子どもに言った言葉で印象に残っているものなどを参考にしてもらった。

調査は、4月から7月にかけての11回の授業中に実施したが、その間に授業に遅刻や欠席をした学生もいることから、調査対象人数49名すべてが11回の回答をしているとは限らない。よって、調査対象の延べ人数は467名である。

2-2 子どもに対する言葉かけについての調査

2022年7月に実施。 本学保育科2年生 46名（3名欠席のため）

「言葉（指導法）」の授業の中で、子どもに伝えたい言葉を記入してきたまとめとして、以下の質問を行った。

- ① 子どもが言葉を身につけるということは、子どもにとってどのような意味を持つと思いますか。
- ② 子どもに身につけてほしい言葉の力とは、どのようなものだと思いますか。
- ③ 子どもに対して望ましい言葉かけとは、どのようなものだと思いますか。
- ④ 子どもに対して望ましい言葉かけをするために、気をつけていることは何ですか。
- ⑤ 子どもに対して望ましくない言葉かけとは、どのようなものだと思いますか。
- ⑥ 保育者の言葉は子どもに影響を与えますか。
大いに与える 少なからず与える 特に与えない まったく与えない

3、調査の結果と考察

3-1 子どもに伝えたい言葉とその理由

子どもに伝えたい言葉（文も含む）として、211種類の言葉が挙げられた（表1）。子どもに伝えたい言葉として一番多かったのは、40名が挙げた「ありがとう」という感謝の言葉であった。そのうちの28名が「お互いにうれしい気持ちになるから」と理由を挙げ、「実習先で子どもたちから言われてうれしかった」と書いてくれた学生も多くいた。9名が「感謝の気持ちを伝えることは大事だから」という理由であった。次に多かったのは32名が挙げた「大丈夫・大丈夫だよ」という安心を与える言葉であった。「友達や先生、アルバイト先で言われて、安心した。気持ちが楽になった」と20名が答え、自分の経験から子どもが不安なときや失敗したときに「大丈夫だよ」と言ってあげたいという気持ちの表れであると考えられる。

ほめ言葉として、19名が「すごい・すごいね」を挙げている。理由としては、「もっと頑張ろうと思うから」「ほめられるとうれしい」などと、この言葉から自信や意欲につながるという理由が多かった。また、「素直に謝ることを伝えたい」という理由から、18名が「ごめんね・ごめんなさい」、「元気よく挨拶すると気持ちいい」という理由から、16名が「おはよう・おはようございます」と、謝罪や挨拶の言葉を挙げた。

以上のように、生活していくうえで必要な感謝や謝罪、挨拶の言葉と、心の安定を促す

言葉が挙げられた。

次に、子どもに伝えたい言葉を分類別に検証していく。211種類挙げられた言葉を語義だけではなく、伝えたい理由の内容も加味しながら33に分類(表1)をした。分類項目の中で一番多かったのが、「ほめる」(分類11)で64名が挙げた。「上手だね」「よくできたね」「すごいね」というほめ言葉のほかにも、12名が挙げた「かわいい・かわいいね・かっこいい・かっこいいね」は、「子どもたちはできたことに対して、『かわいい』『かっこいい』と言うと、喜んでくれて、もっとしようと意欲を見せてくれます」、「やる気になる子が多いから」という実習での体験からの理由であった。子どもをほめることは、子どもの頑張りを認めることになり、それは達成感や自信へとつながり、さらには多くの成長を促すことにもつながるので、「ほめる」言葉が多く挙げられたと考える。

「励まし」(分類9)の「がんばろう」、「認める」(分類10)の「がんばったね」、「安心」(分類12)の「大丈夫」は、学生自身が友達や先生から言われたことにより、安心したりうれしかったり、前向きな気持ちになった。さらに、自分が感じたその気持ちを子どもにも感じて欲しいという思いから、「励まし」「認める」「安心」の言葉が多く挙げられたと考える。

「楽しいね」「気持ちがいいね」といった「感情」(分類1)を表す言葉では、「気持ちを共感する言葉は大切だと思います」、「楽しい気持ちを共有してほしい」という理由から、感情を言葉で表すことにより、友達と気持ちを共有する楽しさを知ってほしいという、気持ちを言語化する援助の姿も見ることができた。

「自然環境」(分類28)においては、「きれいな青空が広がって心がにこにこするね」、「今日は雨が降っているね。おひさま悲しいことがあったのかな」、あるいは、「ミンミンゼミがみんなで大合唱しているね」、「鳥のさえずりがするよ。きれいな声だね」など、子どもの想像力を刺激する表現、知的好奇心をくすぐる表現が多く挙げられた。

さらに、実習の経験があることから、「先生の目を見てしっかりと話を聞けるかな」、「誰が一番お片付けが上手かな」などが挙げられた。これらは、人として身につけてほしい豊かな言葉というよりも、保育園や幼稚園で使用する言葉として挙げられている。

(表1) 子どもに伝えたい言葉

分類	伝えたい言葉 (人数)
1 感情	楽しい・楽しいね (11)、気持ちいいね・気持ちがいいね (8) うれしい・うれしいね (7)、きれいだね (3)、めっちゃ楽しい (1) 水遊び、楽しいね (1)、金曜日うれしいね (1)、元気 (1) きつい (1)、優しくしてもらってうれしかった (1) 変わったね (1)、気持ちを言葉にする (1)、幸せ (1) むずかしいね (1)

2	謝罪	ごめんね・ごめんなさい (18)
3	心配	どうしたの (2)
4	依頼	おねがいします (1)
5	挨拶	おはよう・おはようございます (16) また明日・また明日ね (3)、いただきます・ごちそうさま (3) またね (1)、ばいばい (1)、こんにちは (1)、さようなら (1) あいさつの言葉 (1)、また明日会おうね (1)
6	感謝	ありがとう (40) いつもありがとう (1) お手伝いしてくれて、ありがとう (1)、助かったよ (1)
7	敬う	尊敬の言葉 (1)
8	祝福	おめでとう (5)、お誕生日おめでとう (1)
9	励まし	がんばろう・がんばろうね (13)、がんばって・がんばってね (8) がんばれ (7)、一緒にがんばろう (3) 今日も1日がんばろう (1)、 みんなでがんばろう (1) 自分のペースでがんばろう (1)、 あと少しがんばろう (1) 何回でもがんばったらいつかはできるよ (1) 元気だして (1)、応援しているよ (1)
10	認める	がんばったね・がんばってるね (11)、いいよ (2) できたね (2)、お兄ちゃん/お姉ちゃんになったね (2) よくできたね (1)、やったね (1)、それでいいよ (1) 全然いいよ (1)、名前を呼ぶ (1)、いいと思うよ (1) こんなこともできるんだね (1)
11	ほめる	すごい・すごいね (19)、 かわいい・かわいいね・かっこいい・かっこいいね (12) 上手だね (8)、えらいね (3)、さすが (3)、すごい上手だね (2) できてるよ (2)、よくできたね (2)、できたね (1) えらかったね (1)、ちゃんと自分で伝えられてえらい (1) すごーい上手だね (1)、上手になったね (1)、すごかったよ (1) 上手に言えたね (1)、いいね (1)、それいいね (1) あなたはすばらしい (1)、すごいね、1番だね (1) 今日の〇〇いい感じ! (1)、やったね、できたね (1)

12	安心	大丈夫・大丈夫だよ (32)、よしよし (2)、 ゆっくりでいいよ (1)、待ってたよ (1)、変わってないね (1) たまにはいいんだよ (1)、味方だよ (1)、安心して (1) 我慢しなくてもいいんだよ (1)、ゆっくりでいいんだよ (1) 困ったことがあったら、いつでも言ってきて (1) これからも一緒だよ (1)
13	思いやり	どうぞ (4)
14	印象	優しいね (3)、笑顔 (1)、笑顔で (1)、おもしろいね (1) 良い笑顔だね (1)、いい笑顔だね (1)
15	労い	お疲れ様 (1)
16	共感	そうだね (1) すっきりしたね (1)、確かに (1)
17	努力	がんばる (2)
18	コミュニケーション	お休みの日、どこかに行った? (1)
19	愛情	大好き (7)、好きだよ (1)、愛してる (1)
20	人間関係	お友達は大切にしようね (1)、お友達とは? (1) 家族を大事にしよう (1)、信じる (1)
21	忠告	落ち着こう (1)、やるべきことはやろうね (1) 悩み事は誰かに頼って相談すること (1) それは間違ってるよ (1)、今は何の時間? (1)
22	注意	危ないよ (3)
23	体型	やせた? (1)
24	食事	おいしい・おいしいね (2)、もう少し食べよ (1) 好き嫌いはいできるだけしないようにしようね (1)
25	日付	1日1日を大切に (1)、今日から7月だね (1) 今日から新しい日だね (1)、今日は〇月〇日です (1)
26	体感	暑い・暑いね (7)、あたたかい・あたたかいね (2) 暑くなってきたね (2)、今日はあったかいね (1) ぽかぽかあたたかいね (1)、暑くなったね (1) むしむし暑いね (1)、蒸し暑いね (1)、少し寒いね (1) お外はポカポカして気持ちいいよ (1)
27	行事	昨日は七夕だったね。何かお願いしたの? (1)
28	自然環境	いい天気だね (5)、よい天気だね (2)、風が強いね (2) 風が気持ちいいね (2)、せみの声が聞こえるね (2) お天気だね (1)、きれいな空だね (1)、天気がいいね (1)

		<p>とっても良い天気だね (1)、雲一つない青空だね (1)</p> <p>きれいな青空が広がって心がにこにこするね (1)</p> <p>星がキラキラ光っている (1)、晴れてるね (1)、空が青いね (1)</p> <p>きらきら太陽がまぶしいね (1)、虹がきれいだね (1)、虹 (1)</p> <p>不思議な天気だね (1)、今日も雨だね (1)、雨が降ってるね (1)</p> <p>雨が降っているね (1)、雨が降るね (1)、ずーと雨が降ってるね (1)</p> <p>今日は雨が降っているね。おひさま悲しいことがあったのかな (1)</p> <p>ずっと雨だね (1)、ドヨーンと外は雨だね (1)</p> <p>雨の音聞いてみてね (1)、ゆらゆら風が吹いてるね (1)</p> <p>風がビュービューふいてるね (1)、木がゆれているね (1)</p> <p>せみが元気よく鳴いているね (1)、星がきれいだね (1)</p> <p>ミンミンゼミがみんなで大合唱しているね (1)</p> <p>鳥のさえずりがするよ。きれいな声だね (1)</p> <p>今日の夜、空見てみてね (1)、ひまわりが咲いているよ (1)</p>
29	園生活の活動	<p>貸して (2)、今から大切なお話をします (1)、協力 (1)</p> <p>使っていていいよ (1)、これはどんな色に見えるかな (1)</p> <p>先生とお約束できる (1)、時間 (1)、大切 (1)</p> <p>先生の話先生をしっかりと見て聞きましょう (1)</p> <p>先生の目を見てしっかりとお話を聞けるかな (1)</p> <p>誰が一番静かかな？静かな子から順番で呼ぶよ (1)</p> <p>人形さんが痛そうだよ。2人で一緒に優しく遊ぼう (1)</p> <p>誰が一番お片付けが上手かな (1)</p> <p>先生の方を見て、わからない子は説明を聞いてね (1)</p> <p>10秒かぞえ終わるまえに座れるかな (1)</p> <p>もう終わりにしようね (1)、トイレ行っておいで (1)</p> <p>手を伸ばしてひこうきで帰ろう (1)</p> <p>これがカッコよくできたから、これもカッコよくできる？ (1)</p>
30	格言的	<p>やらない後悔よりやって後悔 (1)、勝ち負けだけが勝負じゃない (1)</p> <p>失敗こそが成功への道標 (1)、明日やろうはバカやろう (1)</p> <p>頑張れば楽しいことがついてくる (1)</p> <p>笑顔でいるといいことが起きるよ (1)</p>
31	導き	<p>また遊ぼうね (3)、いっしょに〇〇してみよう (2)</p> <p>いっしょに〇〇しよう (1)、一緒にやってみよう (1)</p> <p>一緒にしよう (1)、遊ぼう (1)、楽しく遊ぼう (1)</p> <p>いっしょに遊ぼう (1)、こっちに来て一緒に遊ぼう (1)</p>

		先生と一緒にいこう（１）、どうすればいいかな？（１） どんな気持ちになる？（１）、それはいいのかな？（１）
32	共有	半分こ（１）
33	意欲	努力（２）、先生、見てるからね（１）、できる（１）

※（表１）で示す人数は、11回の調査による延べ人数である。

※伝えたい言葉の分類は、言葉の語義だけでなく、伝えたい理由の内容も加味して行った。

※学生がカードに記入した言葉、表現をそのまま記載している。

3-2 子どもに対する言葉かけ

子どもが言葉を身につける意味（表２）として、「自分の思い・気持ちを伝えられる」、「コミュニケーションがとれ、心を通わせることができる」「相手の気持ちがわかるようになる」という回答が多かった。言葉を身につけることにより、子どもは伝達やコミュニケーションの能力を育むことができると考えていることがわかった。

（表２） 子どもが言葉を身につける意味

分類	言葉を身につける意味（人数）
伝達	自分の思い・気持ちを伝えられる（26）
理解	相手の気持ちがわかるようになる（8） 信頼関係をさらに深めることにつながる（2）
興味・関心	さまざまなものに興味・関心をもつきっかけになる（2） 言葉に興味・関心をもつ（1）
コミュニケーション	コミュニケーションがとれ、心を通わせることができる（12）
成長	成長するうえで大切なこと（2） 心も体も成長発達することができる（1）
自信	言葉を知ることで、自分への自信につながる（1）
体験	コミュニケーションをとる楽しさを味わう（7） 言葉の美しさや楽しさを味わう（3）、伝える喜びを味わう（3） 気持ちを共有できる（1）、話す楽しさを知ることができる（1）
習得	日常生活ができる（1）、知識が身につく（1）
可能性	子どもの可能性を広げる（1）、世界が広がる（1）

次に、子どもに身につけてほしい言葉の力（表３）としては、「自分の気持ちを表現する

力」という回答が多かった。「言葉による伝え合い」ができるようになるには、まず「自分の気持ちを表現する力」が必要であるため、これが一番多い回答であったのは、これまでの学びの証しといえよう。加えて、伝え合うために必要な「コミュニケーション力」と、「優しい言葉を使えるようになる」や「日常生活で必要な言葉」など語彙に関する回答が多かった。さらに、言葉を通して「喜んだり、楽しんだりする」、「思いやりの心を伝える力」などと、感情や表現する力を子どもに期待していることがわかった。

(表3) 子どもに身につけてほしい言葉の力

分類	身につけてほしい言葉の力 (人数)
伝達	うまく伝える力 (1) 自分の思っていることをはっきりと言うこと (1)
理解	正しい言葉を使うことができる力 (3) 相手の言っていることを理解する力 (2)、相手の感情が分かる力 (1)
習得	さまざまなことを身につけていく (1)
語彙	優しい言葉を使えるようになる (7)、日常生活で必要な言葉 (6) 肯定的な言葉 (3)、人を元気づける言葉 (3)、感情を表す言葉 (3) 人を幸せな気持ちにする言葉 (1)、楽しめる言葉 (1)、 丁寧な言葉を使う (1)、きれいな言葉 (1)、前向きな言葉 (1)
感謝	感謝の気持ちを伝える (3)
感情	喜んだり、楽しんだりする (3) 相手を喜ばせたり、うれしい気持ちにする力 (1)、感性を高める (1)
表現	自分の気持ちを表現する力 (11)、思いやりの心を伝える力 (2) 豊かで美しい会話 (1) 自分が言われたら嫌な言葉を使わない (1)
コミュニケーション	コミュニケーション力 (8) 他者とのやりとりをスムーズに行う力 (1) 相手の立場になって話せるようになる力 (1)

次に、子どもに対して望ましい言葉かけ(表4)については、「肯定的な言葉」をはじめ、「優しい言葉」「ほめる言葉」「子どもに寄り添った言葉」「安心感を与えられる言葉」など、上記に挙げた「子どもに伝えたい言葉」(表1)にも共通する「ほめる」「認める」「安心」がキーワードになっていると考えられる。また、「意欲関心を高めることができるような」、「考えを広げることができるような」言葉をかけること、「わかりやすく、はっきりと話す」、「ゆっくり話す」、「大人の知識ですぐに子どもの発言を否定しない」という促しや対応に関する回答は、実習による経験から生まれた回答であると考えられる。

(表4) 子どもに対して望ましい言葉かけ

分類	望ましい言葉かけ (人数)
促し	意欲関心を高めることができるような言葉かけ (5) 考えを広げることができるような言葉かけ (3) 子どもの会話・言葉を引き出すような言葉かけ (3) 促すような言葉かけ (1)、自信がもてるような言葉かけ (1)
語彙	肯定的な言葉 (18)、優しい言葉 (7)、正しい言葉 (6) ほめる言葉 (4)、丁寧な言葉 (3)、子どもに寄り添った言葉 (3) きれいな言葉遣い (2)、明るく前向きな言葉 (1)、標準語 (1) 安心感を与えられる言葉 (1)
対応	わかりやすく、はっきりと話す (2)、思いやる気持ち (2) ゆっくり話す (1)、大人の知識ですぐに子どもの発言を否定しない (1)

次に、望ましい言葉かけをする際の留意点 (表5) として、「方言を使わない」が一番多く、これは、実習先で方言を使ったことで注意を受けたことから、このような回答が多かったと推測できる。さらに、語彙だけを留意しているのではなく、「ゆっくり話す」「目線を合わせる」「笑顔で話す」など、子どもに寄り添っていることがわかる。保育者として、子どもの目線に立ち、子どもに共感し、子どもの心情を理解しようという態度の表れである。

(表5) 子どもに対して望ましい言葉かけへの留意点

分類	望ましい言葉かけへの留意点 (人数)
語彙	方言を使わない (12)、否定的な言葉は使わない (9) 丁寧な言葉遣いに気をつける (5)、子どもにもわかりやすい言葉 (3) 正しい言葉を使う (3)、指示する言葉は使わない (2) きれいな言葉を使う (1)、省略語や若者言葉を使わない (1)
話し方	ゆっくり話す (5)、優しくはっきりとした発音で話す (3) 笑顔で話す (2)、意欲を引き出すように話す (2) 優しい声で話す (1)、優しく話す (1)、穏やかに話す (1) 場面にあわせて表情や声のトーンを使い分ける (1) 好奇心や探求心を高めることができるような話し方をする (1) 怒ったような口調にならないようにする (1)
対応	目線を合わせる (4)、ほめる (2)、子どもの嫌がる声かけはしない (1) 子どもが自分のよさに気づけるようにする (1) 一人一人の特性や発達段階を受けとめ、理解したうえでの声かけ (1)

	「ありがとう」と感謝の言葉を返す（１）
共感	子どもの気持ちを受けとめる（４）、子どもの気持ちに共感する（３） 子どもが傷つかないかを考える（１）

次に、子どもに対して望ましくない言葉かけ（表６）について、「否定的な」、「荒々しい」、「傷つけるような」言葉、さらに「強い」、「命令」口調などが挙げられた。望ましい言葉かけ（表４）で挙げられたような、子どもに寄り添う、安心感を与える言葉かけはなかった。さらに、保育者の言葉が子どもに与える影響（表７）については、「大いに与える」と考えている学生が 95.7%いることから、保育者の言葉が子どもに与える影響の大きさを懸念していること、そこからは学生が自分自身の言葉について注意しなければならないという気持ちの強さが表れていると考えられる。

（表６） 子どもに対して望ましくない言葉かけ

分類	望ましくない言葉かけ（人数）
語彙	否定的な言葉（20）、荒々しい言葉（7）、方言（6） 傷つけるような言葉（6）、人格を否定する言葉（2） 命を軽視する言葉（1）、責めるような言葉（1）、怖い言葉（1） 嫌な気持ちになる言葉（1）、決めつけるような言葉（1） 不適切な言葉（1）
感情	悪口や暴言（5）、怒った感情のまま話す（2）
話し方	一方的に話す（5）、強い口調（5）、命令口調（3） 冷たい言い方をしない（2）、元気のない声で話す（1） 指示するように話す（1）

（表７） 保育者の言葉が子どもに与える影響

影響	大いに与える	少なからず与える	特に与えない	まったく与えない
人数	44	2	0	0

※（表２）（表３）（表４）（表５）（表６）は、複数回答なので、調査人数と各回答の合計人数が違う。また、多少表現が違っていても、内容が類似している場合は、同じ回答文に入れている。

４、おわりに

幼児期に育みたい「資質・能力の３つの柱」は「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「学びに向かう力、人間性等」⁴⁾である。特に「学びに向かう力、人間性

等」の資質・能力を具体的に挙げると「思いやり」「安定した情緒」「自信」「相手の気持ちの受容」「好奇心、探究心」「目的の共有、協力」「自然現象や社会現象への関心」⁵⁾などであり、学生が「子どもに伝えたい言葉」として挙げた内容と共通する。学生たちが言葉を選択した理由には、相手を思いやる気持ち、相手を傷つけない気持ち、認める気持ち、安心を与える気持ちなど、一人の人間として備わってほしい資質・能力が表れていた。それは、保育を学んできた成果と、教育実習や保育実習など保育現場での学びを通して、身についたと考えられる。

保育者の言葉については「幼児の言葉の発達や人との関わりを捉えそれに応じながら、正しく分かりやすく、美しい言葉を使って幼児に語り掛け、言葉を交わす喜びや豊かな表現などを伝えるモデルとしての役割を果たしていくことが大切である」⁶⁾と示されている。今回の調査から、保育者は「言葉のモデル」として、「正しく、分かりやすく、美しい」言葉を使わなければいけないという思いと、子どもに対して「望ましい言葉」と「望ましくない言葉」を明確に区別していることがわかった。「望ましい言葉」とは、子どもに寄り添い、共感し、認めるといった、子どもの気持ちを理解しようとする姿勢、理解しているといった意思表示の言葉であった。「望ましくない言葉」とは、子ども自身を否定するような、子どもに寄り添っていない言葉であった。つまり、保育者として、子どもと信頼関係を築き、子どもに寄り添い共感していることを言葉で表現する、ということを学生たちは求めている、実践しようとしていることがわかった。子どもを前向きな感情へと導くために、言葉をとおして、肯定的な言葉を使うことがよりよい方法のひとつであると学生たちはとらえていることがわかった。

以上の調査から、子どもに安心感・信頼感を与える言葉、認める言葉、自己肯定感を高める言葉を伝えたいと考えていることがわかり、その子どもへの願いを込めた言葉から、保育者としての意識・意欲を知る手立てとなった。園生活の中で、子どもは、自分の気持ちを発し、相手の話を受けとめ、友達や保育者に認められ、受け入れられる経験を重ねることにより、人間性を築き、自己肯定感を高めることができる。それは、言葉を発したい欲求や、言葉への関心へとつながっていく。保育者として、子どもの気持ちを読み取る力、子どもを理解しようとする力を根底に、子どもの言葉の育ちを意識した援助が重要である。

謝辞

本研究にご協力くださった学生の皆様に感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省 (2017) 『幼稚園教育要領』「第1章 総則」「第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』
- 2) 久保田健一郎、吉田直哉 (2017) 「保育学生が抱く言葉をめぐる保育方略—『望ましい

保育方法（ペタゴジー）』としての言葉づかいに対する認識を中心に―」国際研究論叢
31（2）p187

3) 松尾裕美(2020)「子どもの気持ちを理解する保育者の言葉の使い方―Thomas Gordon
による人間関係への学びについて―」福岡女学院大学紀要 人間関係学部編 第21号
p64

4) 1) に同じ

5) 文部科学省(2016)「幼児教育部会における審議の取りまとめ」資料1

6) 文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』「第2章 ねらい及び内容」「4 言葉の獲得
に関する領域『言葉』」「内容の取扱い」p225